

# 翔

NO. 81

'89 DECEMBER



Butterfly

Beetle

Insect

百万石蝶談会

## 富山県に於けるヒサマツミドリシジミの分布調査(その1)

井村正行・指田春喜・澤田 博・中西重雄・野中 勝・松井正人

ヒサマツミドリシジミ (*Chrysozephyrus hisamatsusanus*) は、富山県ではこれまでに下新川郡朝日町(笹川水系)、(黒部川水系)、上新川郡大沢野町及び婦負郡細入村(以上神通川水系) から記録されている<sup>1)2)</sup>。今回、若干の調査を試み、新たに以下の4地点より記録することができたので報告する。

## 1) 婦負郡八尾町久婦須川(標高 320~370m)

✖ 1989年10月15日 野中 勝 調査

ウラジログシは桐谷の部落を過ぎる辺りから目に付きはじめ、第1、第2発電所の中間地点位までポツポツと見られた。以後、第2発電所の奥まで車が入ってみたがウラジログシは見られず、引き返して標高370mから320mの間の4ヵ所で樹に登り、全ての地点でヒサマツ卵を発見することができた。50卵ほど採れた樹が1本だけあり、他は全て数卵づつであった。また、同時に採集したゼフ卵も報告しておく。

ヒサマツミドリシジミ	72卵	メスアカミドリシジミ	2卵
ダイセンシジミ	1卵		(サクラの一種)
ミズイロオナガシジミ	1卵		
アイノミドリシジミ	4卵		
	(以上ウラジログシ)		

## 2) 婦負郡八尾町室牧川(標高270m)

✖ 1989年10月22日 全員で調査

ウラジログシは下ノ茗温泉、室牧ダム間ではかなりの密度で見られ、ダム湖の奥まで入ると少ない様であった。6人で1時間以上を費やして、10本以上の樹を調べた結果が12卵で、かなり少ないと思われる。

ヒサマツミドリシジミ	12卵	アイノミドリシジミ	1卵
			(以上ウラジログシ)

## 3) 婦負郡山田村山田川(標高320m)

✖ 1989年10月22日 全員で調査

ウラジログシは山田温泉付近にかなり見られたが、素通りして奥に入った。谷の集落付近から対岸の絶壁の上はかなりまとまって生えているウラジログシを発見し、その更に上部を通っている道に鍋谷方面から入り調査した。約30分の成果で、ここより奥は通行止のため調査していない。

ヒサマツミドリシジミ	23卵	アイノミドリシジミ	1卵
			(以上ウラジログシ)

4) 東砺波郡庄川町小牧ダム (標高200m)

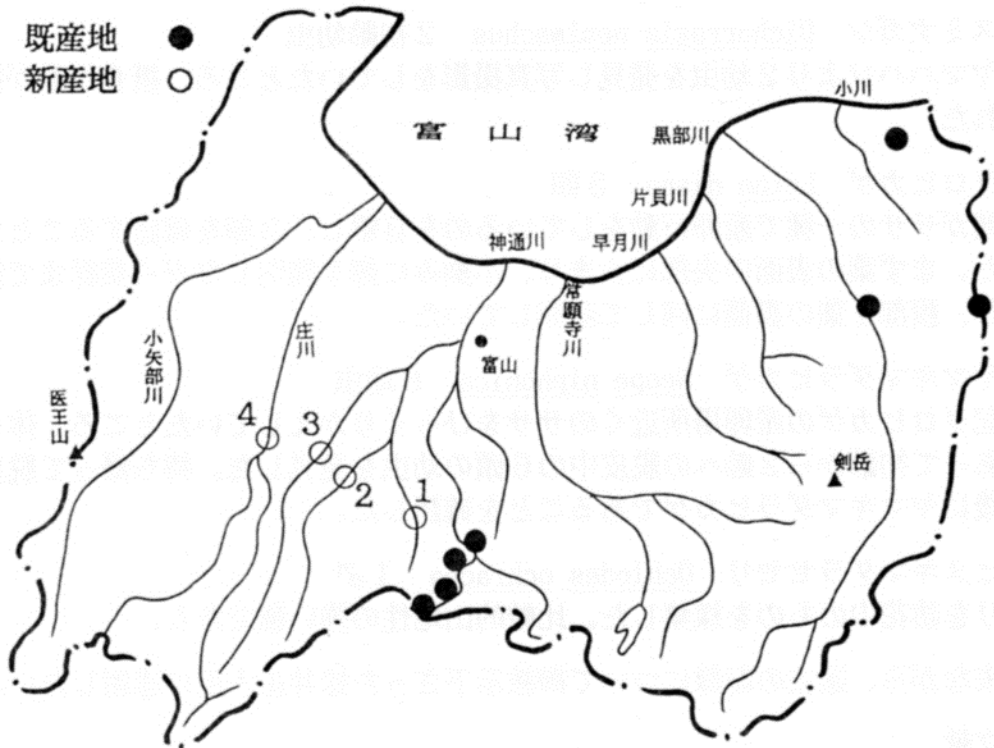
1989年10月22日 全員で調査

秋の夕暮にせきたてられるように庄川をさかのぼり、最初にまとまってウラジログシが見られた小牧ダム付近で暗くなるまでの30分間程調査し、庄川水系初のヒサマツミドリを発見することができた。小牧ダムより奥は、全く調査していない。

ヒサマツミドリシジミ 7卵      アイノミドリシジミ 3卵  
(以上ウラジログシ)

最後に今回の調査で明らかになった産地を、既産地と共に図示しておく。

《 ヒサマツミドリシジミの産地 》



1) 富山県昆虫研究会(1979): 富山県の昆虫

2) 富山県昆虫研究会(1988): 富山県の昆虫類

《いむら まさゆき 〒920<sup>01</sup> 金沢市湊2-116-70》

《さしだ はるき 〒920 金沢市材木町8-3》

《さわだ ひろし 〒920 金沢市石引1-16-11》

《なかにし しげお 〒921 金沢市法島町9-49》

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

《まつい まさと 〒920<sup>01</sup> 金沢市大場町東871-15》

## 富山県福光町ナガトロ峡で7月2日に観察した蝶類

野 中 勝

1989年7月2日の午後1時～3時の約2時間の中に、ナガトロ峡にて観察できた蝶類数種について報告したい。当日は曇天で、標高約450mのナガトロ峡はクリの花の最盛期にあたり、ウラクロシジミを始め多くのゼフィルス類が集まっていた。

1) ウラナミアカシジミ Japonica saepestriata 1♀

飛翔中のものを採集した。ナガトロ峡からは以前にも報告があるが<sup>1)2)</sup>、クヌギ、アベマキの多く見られる石川、富山両県下の他の多くの産地とはかなり異なる環境なので記録しておく。ナガトロ峡のブナ科植物は、ブナ、ミズナラが主体である。

2) スミナガシ Dichorragia nesimachus 2初齢幼虫

ミヤマハハソより2幼虫を発見し写真撮影をしていたところ、摂食行動が観察された。

3) クロヒカゲ Lethe diana 3卵

1雌がササの一種で産卵行動をしているのを目撃し、3卵を確認することができた。まず葉の表面中央部に止まり、小刻みに翅を開閉しながら葉縁まで後退りし、腹部を葉の裏側に回して産卵していた。

4) ヤマキマダラヒカゲ Neope nipponica 6幼虫

上記クロヒカゲの産卵場所近くのササをひっくりかえしていたところ、体を寄せあって初齢から2齢への脱皮中の6頭の幼虫を発見した。持ち帰って脱皮完了後にヤマキマダラヒカゲであることを確認した。

5) ヒメキマダラセセリ Ochlodes ochracea 1♂

クリを訪花中のものを採集した。比較的山地性の強い種である。

文末ながら、過去の記録について御教示下さった松井正人氏に感謝したい。

## 参考文献

- 1) 野中 勝(1982) 1982年ゼフィルス採幼の記録 翔(33):6
- 2) 加藤治好(1985) ウラナミアカシジミの分布及び食餌植物について 雑木林(3):7~8  
《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

## 採卵用まる秘グッズ〔採卵手袋〕

野中氏がアメリカから持ち帰ったもので、渡米まで全く木に登れなかった氏も、帰国後はこれで、すいすい登っていた。ところが最近、手袋がなくてもスイスイ登っている。

富山県福光町ナガトロ峡でヨコヤマヒゲナガカミキリを採集

野中 勝

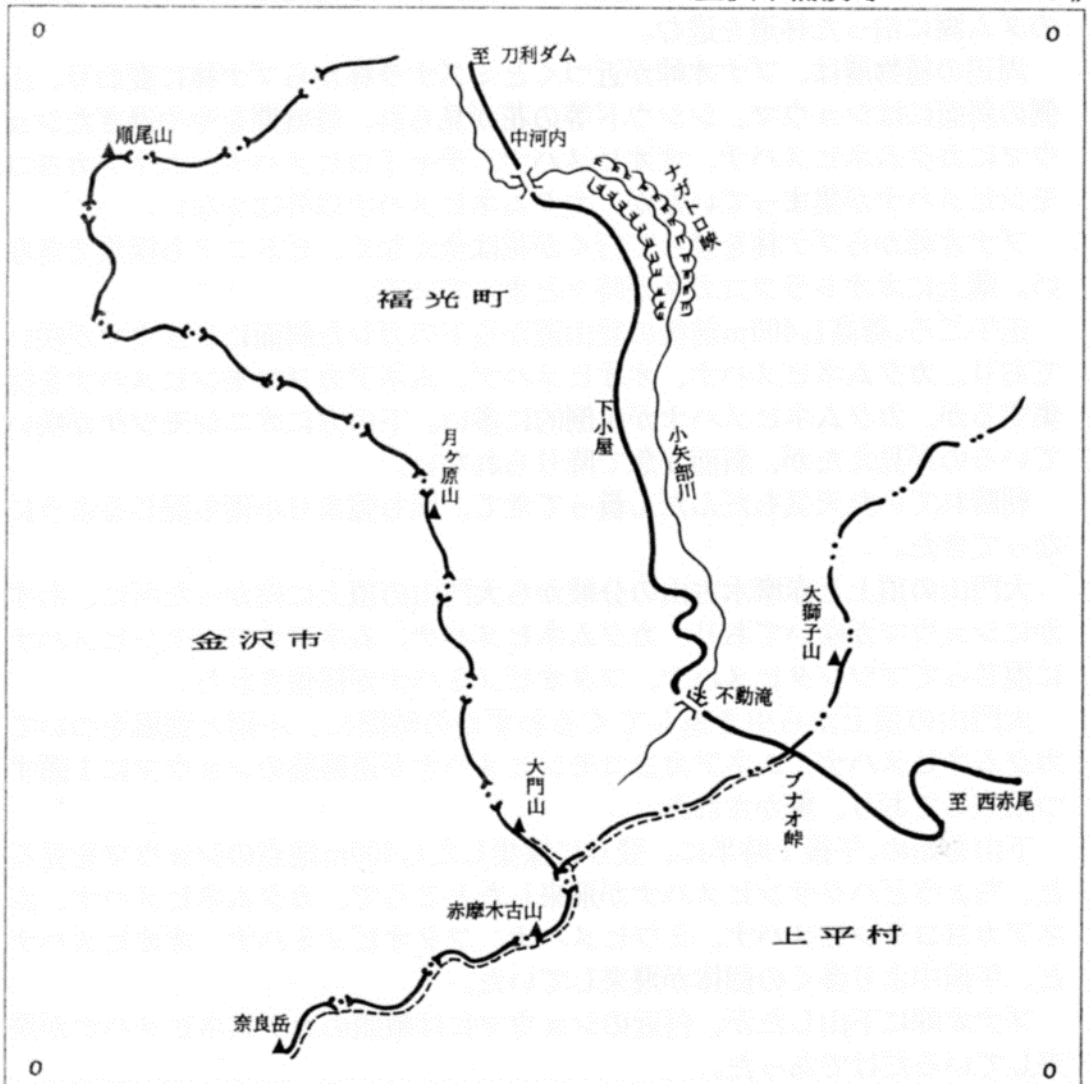
ヨコヤマヒゲナガカミキリ (*Dolichoprosopus yokoyamai*) は、富山県ではこれまでに有峰、黒部峡谷より記録されている様であるが<sup>1)</sup>、下記の如く採集したので報告する。

1989年7月29日 富山県福光町ナガトロ峡(標高約450m) 1♂ 野中 勝

蛾を主目的としたナイターの際に得たものだが、当日は蛾の集まりは極めて悪く、密かにナマリキシタバを狙ったにもかかわらず、飛来したカトカラはキシタバ1頭のみであった。

1) 富山県昆虫研究会(1979): 富山県の昆虫

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》



## 大門山・赤摩木古山にヒメハナカミキリ属を求めて

澤田 博

大門山(標高1,571m)、赤摩木古山(1,501m)は、石川県、富山県境にまたがり、登山道は、富山県西砺波郡の通称ブナオ峠(950m)からつけられている。

平成元年(1989年)7月29日、8月12日、8月26日に、ブナオ峠から大門山、赤摩木古山頂までの間を、ヒメハナカミキリ属 *Pidonia* (以下「ピドニア」と言う。)の調査を目的に訪れたので報告しておく。

ブナオ峠は、その名のとおりブナ帯の下部で、大門山頂部まで、わりと良くブナ林が残っており、大門山頂部から赤摩木古山頂を結ぶ尾根にはダケカンバが混じるといった植物層である。

## 1) 7月29日の記録

天気は晴、朝8時に自宅を出発する。金沢市から富山県に入り、刀利ダムのダム湖に沿った林道を進む。

周辺の植物層は、ブナオ峠が近づくとミズナラ林からブナ林に変わり、山側の斜面にはショウマ、シシウド等の花が見られ、最盛期をやや過ぎたショウマにカクムネヒメハナ、オオヒメハナ、チャイロヒメハナ、ムネアカヨコモヒメハナが集まっていたが、カクムネヒメハナ以外は少ない。

ブナオ峠からブナ林を登って行くが花は全くなく、ピドニアも採集できない。葉上にオオトラフコガネが時々とまっている。

正午ごろ、標高1,400m前後の登山道から下のガレた斜面にショウマが咲いており、カクムネヒメハナ、オオヒメハナ、ムネアカヨコモヒメハナを採集するが、カクムネヒメハナが圧倒的に多い。下の方にオニシモツケが咲いているのが見えたが、斜面が急で降りられない。

朝晴れていた天気もだんだん曇ってきて、風も強まり小雨も混じるようになってきた。

大門山の頂上と赤摩木古山の分岐から大門山の頂上に向かった所に、わずかにショウマが咲いており、カクムネヒメハナ、ムネアカヨコモヒメハナに混じってマツシタヒメハナ、フタオビノミハナが採集された。

大門山の頂上から引き返してくるわずかの時間に、小雨と強風についてカクムネヒメハナ、ムネアカヨコモヒメハナが道路脇のショウマに1頭ずつ飛来しており、驚かされた。

下山を始め、午後1時半に、登りに採集した1,400m地点のショウマを見ると、ちょうどハクサンヒメハナが飛来したところで、カクムネヒメハナ、ムネアカヨコモヒメハナ、ミワヒメハナ、フタオビノミハナ、オオヒメハナと、午前中より多くの個体が飛来していた。

ブナオ峠に下山したが、付近のショウマには数頭のカクムネヒメハナが飛来しているだけであった。

## 【採集されたピドニア】 1989年7月29日 澤田 博

ブナオ峠(950m)

<u>Pidonia bouvieri</u>	カクムネヒメハナカミキリ	3♂	6♀
<u>Pidonia grallatrix</u>	オオヒメハナカミキリ	3♂	
<u>Pidonia masakii</u>	ムネアカヨモモンヒメハナカミキリ	1♂	2♀
<u>Pidonia aegrota</u>	チャイロヒメハナカミキリ	1♂	

大門山頂付近(1,400m~1,571m)

<u>Pidonia matsushitai</u>	マツシタヒメハナカミキリ	1♂	1♀
<u>P. obscurior hakusana</u>	ハクサンヒメハナカミキリ	1♂	
<u>Pidonia bouvieri</u>	カクムネヒメハナカミキリ	16♂	13♀
<u>Pidonia grallatrix</u>	オオヒメハナカミキリ	5♂	1♀
<u>Pidonia masakii</u>	ムネアカヨモモンヒメハナカミキリ	4♂	5♀
<u>Pidonia miwai</u>	ミワヒメハナカミキリ	1♂	2♀
<u>Pidonia puziloi</u>	フタオビノミハナカミキリ	2♂	

## 【その他の採集品】 1989年7月29日 澤田 博

ブナオ峠~大門山頂(950m~1,571m)

<u>Idiostrangalia contracta</u>	ミヤマホソハナカミキリ	1♀
<u>Strangaliella nymphula</u>	ニンフホソハナカミキリ	1♀
<u>Anoploderomorpha monticola</u>	クロルリハナカミキリ	1♂
<u>Pseudallosterna misella</u>	チャボハナカミキリ	1♀
<u>Rhaphuma diminuta</u>	ヒメクロトラカミキリ	1♀
<u>Rhopaloscelis bifasciatus</u>	フタオビアラゲカミキリ	1♀
<u>Eumecocera unicolor</u>	クロセリソゴカミキリ	1♀
<u>Paratrichius doenitzi</u>	オオトラフコガネ	2♂

## 2) 8月12日の記録

朝から快晴で、県境から刀利ダム湖沿いの道を車で行く。

カーブをまがると、大きな犬の様なものがある。一瞬後にカモシカと気がついた。

カモシカは、トコトコと舗装された道路を走って行き、その速度にあわせて車についていく。道路の山側は長く続くコンクリート要壁で、土手変わった所でようやく藪に消えた。

川沿いの道は、今日はアブが多く、車の窓を開けられない。ブナオ峠まで、所々にシシウドが咲いているが、カミキリは見られない。

ブナオ峠から登っていく。かなり標高の高い所からノリウツギが咲いており、オオヒメハナ、ヒゲジロハナ等が飛来している。

大門山と、赤摩木古山の分岐から赤摩木古山の方へ向かう。

稜線には次々とノリウツギが咲いており、オオヒメハナ、カクムネヒメハナに混じってムネアカヨコモヒメハナ、ニンフホソハナ、ヨスジハナが見られ、ヒメヒゲナガカミキリが1頭訪花していたのには驚いた。

オオトラフコガネの雄が多く、花の廻りを飛び廻る姿は、明るい薄茶色の地に黒い縞が見えてなかなかきれいである。

赤摩木古山の頂上付近のノリウツギ花を、「どうせヨスジハナ」と思いながらすくうとヤマトヨスジハナの雄であった。

頂上は、見晴らしがよく、周囲の山々の方位板が据えてある。秋の到来を告げるアカトンボの群れが空中をただよっていた。

下山途中に、ノリウツギからヌバタマハナの雄を採集したが、本種は白山山系では採集記録が少なく、採集したピドニアは少なかったものの、やや満足し帰路についた。

【採集されたピドニア】 1989年8月12日 澤田 博

大門山～赤摩木古山(1,400m～1,501m)

<u>Pidonia bouvieri</u>	カクムネヒメハナカミキリ	5♂	2♀
<u>Pidonia grallatrix</u>	オオヒメハナカミキリ	7♂	1♀
<u>Pidonia masakii</u>	ムネアカヨコモヒメハナカミキリ		2♀

【その他の採集品】 1989年8月12日 澤田 博

大門山～赤摩木古山(1,400m～1,501m)

<u>Judolidia bangi</u>	ヌバタマハナカミキリ	1♂	
<u>Judolia cometes</u>	マルガタハナカミキリ	1♂	
<u>Leptura ochraceofasciata</u>	ヨスジハナカミキリ	1♂	
<u>Leptura subtilis</u>	ヤマトヨスジハナカミキリ	1♂	
<u>Strangaliella nymphula</u>	ニンフホソハナカミキリ	2♂	1♀
<u>Japanostrangalia dentatipennis</u>	ヒゲシロハナカミキリ	1♂	
<u>Monochamus subfasciatus</u>	ヒメヒゲナガカミキリ		1♀
<u>Paratrichius doenitzi</u>	オオトラフコガネ	5♂	2♀

3) 8月26日の記録

天気は晴で蒸し暑く、ブナオ峠からの登山道を登る。ノリウツギも終わっていて、代わりにリョウブの花が咲いていたが、カミキリ、コガネ類の姿は見られない。

分岐から、大門の方へ向かわず、赤摩木古の方へ向かう。本人の希望で連れてきた、かみさんを前に行かして、尾根筋をリョウブと咲き残りのノリウツギの花をすくって行くが、全く何もいない。

そのうち、かみさんに追いついたが「遅い」と文句を言うので不思議に思ったら、なんと！ 熊にでくわしたとのことで、熊が先に気づいて逃げたそう



で、背中しか見えなかったとのこと。オオコワ・・・・。

お昼近くに赤摩木古山の頂上に着く。頂上にはキアゲハが旋回していた。どうせなら、もうすこしましな蝶が旋回していて欲しいものだ。

昼食を済ませ、下をみるとコケモモの実が成っている。コケモモが、こんな低いところからあるとは知らなかった。一つとって食べてみる、なかなか食べられる味である。

周囲にガスが上がってきたので、戻ることにする。途中のガレた所で飛翔中のキベリタテハを見つけ、懸命に網を振る。一度はネットしたが、網を反転するまでの間に逃げられてしまった。

ダケカンバがポツポツあるので、いるのではないかと思っていたが、結局2頭を目撃した。

カミキリは、ピドニアはまったく見られず、わずかに、ニンフホソハナ、ヨスジハナを数頭採集できただけであり、この標高でのピドニアのシーズンは終了したと言える。

【採集品】 1989年8月26日 澤田 博

大門山～赤摩木古山(1,450m～1,501m)

<u>Leptura ochraceofasciata</u>	ヨスジハナカミキリ	1♂
<u>Strangaliella nymphula</u>	ニンフホソハナカミキリ	2♂

#### 4) ピドニアに関する考察

(1) ピドニアの個体の動きは、晴れていて気温の高い方が活発で、飛翔力もあるようだが、花に飛来する個体数は、たとえ小雨が降っていても花が日陰になった間が多かった。

(2) 斎藤<sup>1)</sup>によれば、ハクサンヒメハナ(*P. obscurior hakusana*)はシラネヒメハナの亜種とされ、標高1,500m以上の亜高山性の針葉樹林帯を主な生息場所とし、上部に針葉樹林帯を持つブナ帯上部にも生息地を持つという。

大門山、赤摩木古山は上部に針葉樹林帯を持たないが、本種は白山を中心とし、周辺の山々のブナ帯の上部に連続的に分布している可能性が強い。

(3) 大門山に分布するカクムネヒメハナには、上翅、前胸背が黒化する個体は見られなかったほか、他種においても特に特徴的な形態は見られなかった。

#### (参考文献)

- 1) 斎藤秀生(1988):山々で分化したシラネヒメハナカミキリとその変異  
日本の甲虫(佐藤正孝編). 東海大学出版会  
《さわだひろし 〒920 金沢市石引1-16-11》

## アサギマダラ・マーキング一覧(1989)

1989年は、さてこれからという8月下旬から天候が悪くなり、マーキングが可能な9月いっぱいほとんど雨でした。金沢气象台によれば、9月の雨は例年の3倍だったそうで、小雨決行の覚悟で調査を進めていましたが、やはり結果は以下の如く惨憺たるものでした。

マーク日	マ ー ク 地	マ ー ク 数	備 考
7月2日	白峰村白山釈迦岳	1♂	
9月9日	輪島市高洲山	2♂	風強し
9月10日	押水町宝達山	2♂ 1♀	午前中大雨
12日	"	1♂ 1♀	
15日	"		ガスの中
17日	"	22♂ 2♀	約1時間半の記録
計		28♂ 6♀	

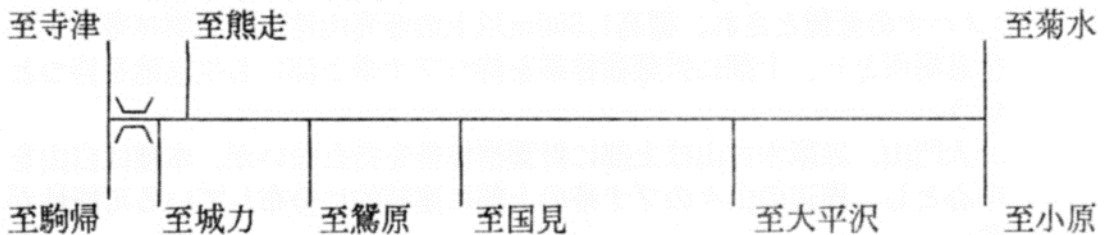
## こんな道あんな道《林道犀鶴線》

松井 正 人

1988年に金沢市の駒帰～大平沢が開通し、89年末には小原まで抜けられる。そのうち鶴来町まで行けるようになるらしいが、いつのことか分からない。

駒帰～国見は舗装されていて、すこぶる快適な道だが、大平沢へとなると落石が多く、道幅がある割にはひどい道である。

金沢の奥山を通っているので、おもしろい発見があるかも知れない。ヒメカンアオイはずっとあって、ギフチョウも飛んでいる。



《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## 採卵用まる秘グッズ〔採卵ブーツ〕

中西氏、松井氏も愛用している優れもの。靴底にトゲトゲのあるもので、どんな木でもスイスイ登れること請け合い。釣具店で手に入る。

## 会員の動き・しゃばの動き

●9月24日アサギマダラが舞い踊る中、宝達山大権現本殿落成式がしめやかに行われた。奉賛者名簿をつらつら眺めていると、「嵯峨井淳郎」の名がひとときわ光っていた。

●10月3日井沢氏、ふらりと金沢に現れる。10日にはインドネシアの木曜社支社へ帰るらしい。

●10月8日野中氏、大雨の中、猪谷を目指す。

●10月13日小幡氏、手取付近でカメラ散歩。カラスが何かくわえているのでズームアップすると、なんとアサギマダラ。

●10月15日野中氏、密かなる思惑を抱き富山県は八尾町へ。ゼフ各種を採卵し、しっかりヒサマツもものにする。

●10月22日野中氏に乘せられた蝶談会の面々、大挙して富山県へ。各地でヒサマツを採卵し、「今年は豊作？」と首をかしげる。

●10月29日野中氏に乘せられし蝶談会の面々、さればと犀川へ。ところがどっこい、どれだけ捜してもヒサマツは見つからず。イモを掘って帰る。

●11月3日野中氏に乘せられし蝶談会の残党、犀川でイモってメンバーも半減したものの、今回は手取川を目指す。ところがやっぱりヒサマツのガードは固かった。

●田中氏の庭が雑木林に。食草園を目指して1年、庭がこんもりした雑木林に生れ変わった。ミドリシジミ、コムラサキ、ゴマダラ、各種アゲハが見られ、更にはアメシロも大発生。

●11月3日蝶談会のキノコ軍団、釈迦道あたりでナメコ汁に舌つつみ。

●11月3日勝海氏よりTELあり。「今年はウラクロが当たり年、ひよっとするとウスイロも！」

●11月5日野中氏に乘せられし懲りない面々、今回は我谷ダムへ出かけたものの、またもやボツった。気分転換に竹田川へ乗り込んだものの、やっぱりボツ。

●11月5日松井氏の在所では、美人コンテストならぬ美蝶コンテスト。投票総数51票の中、堂々のトップはミヤマカラスアゲハの15票、次点はアイノミドリ12票。

●11月12日野中氏、医王山でウラクロ捜し。ところが誰かの跡ばかり捜してるらしく、おいしいはずの芽がなくなっていた。

●クマよりも速くブッシュを駆け、リスよりも軽やかに枝を伝い、絶壁の大木も一登り、そうですこれが採卵マンです。ところがヒサマツは採れません。

●11月17日野中氏、北海道は千歳にて、フライトの待ち時間を惜しんで採集活動。道具は無く、革靴で木に登るやら、素手でガケを崩すやら。

●11月18日東北の横山氏よりTELあり。ウラクロ、ダイセンは多いが、ウラゴマダラは少ないらしい。

●指田氏、台湾へ通いつめていたが、どういう訳か今年はマレーシア。おかしいとは思っていたが、台湾は今年7月から全島動植物採集禁止になったんだってさ。

■11月18日田中氏、戸室辺りで何やらゴソゴソ。オオムラサキは豊産とかで、オオミスジも多いらしい。

■諸道氏、蝶研フィールド11月号に登場。さて、何処に出ているでしょうか。

■11月23日松井、野中、指田の3氏、能登へ。狙いはコムラ、オオムラ。ヤナギもエノキもミドリミドリしていたものの、越冬幼虫はしっかり確認。しかしオオムラサキは確認できず。

■11月25日松井氏、能登へエノキの調査。あっちもこっちもゴマダラばかりの中、ついに石動山でオオムラサキを確認。

■11月26日高平コレクション、内日角祭で堂々のお披露目。10箱の大キラビヤカに町民もアゼン。

■11月26日澤田、中西、野中の3氏、早朝からけったくしていずこかへ。さてピッケルを持ったおじさんたちは、いったい何処へ何をしに行ったでしょう。

### 例会の記録

10月6日(金)城南管工2Fにて8時より開催。10月例会はスライド大会。今回は、松田、田辺、小幡、野中、竹谷と大豪華メンバーで、会員諸氏も見入っていた。

また今回は富山の高野氏が、トヤマオサを抱えて殴り込みをかけ、

『KINDER BUG』を売り込んでいった。

参加は、野中、高野、井村、松井、松田、小幡、竹谷、中西(2人)、腰本、澤田、指田、井村、山岸、細沼、田辺の総勢16人でした。

偶数月は蝶談会 !  
第1金曜を忘れるな !

らいねんから れいかいの あんないは ありません  
くれぐれも ごようじん

## 目 次

井村正行 他5名：富山県に於けるヒサツミドリツミの分布調査(その1)	..... 1
野中 勝：富山県福光町ナガトロ峡で7月2日に観察した蝶類	... 3
野中 勝：富山県福光町ナガトロ峡でヨヤマヒゲガがミクリを採集	..... 4
澤田 博：大門山・赤摩木古山にヒメハナカミキリ属を求めて	... 5
編集 部：アサギマダラ・マーキング一覧(1989)	..... 9
松井正人：こんな道あんな道《林道犀鶴線》	..... 9
編集 部：会員の動き・しゃぼの動き	..... 10
編集 部：例 会 の 記 録	..... 11

とぶ NO.81

1989年12月8日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方  
百万石蝶談会  
☎ 0762-58-2727  
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所